

社会的制裁を受けた人と第三者

長久手市立北中学校

二年 福谷 啓太

社会的制裁という言葉を知っていますか？社会的制裁とは法以外の制裁のことを指し、身近なものだとネット内で起こる誹謗中傷の書き込みなどがそれに該当します。最近はSNSに迷惑動画を投稿した若者に対し、名前などの個人情報晒すという制裁を加えるということが多いそうです。若者だとしても迷惑動画を投稿すると社会的制裁が加えられる可能性があると分かるはずですが、なぜ彼らは社会復帰が難しくなるのに、そのような事をしてしまうのでしょうか。まず、なぜ社会的制裁を受けると社会復帰が難しくなるのでしょうか。このことは日本の再犯率を見るとよく分かります。再犯率とは、刑務所に一度入ってしまった後、また犯罪を犯し、刑務所に戻ってくる割合を表したものです。再犯率を見てみると、日本は約五

割とかなり高いです。具体的な理由を見てみると、出所しても社会的に孤立し、排除された結果、再犯を犯してしまうという事が多いそうです。このように今の時代は過去に犯した過ちを正せない世の中になっているということが分かります。実際に前科などが残っていると就職するのが不利になったりというペナルティが発生するなど身近なところにも社会的制裁があると感じられます。

では、なぜ彼らは迷惑動画を投稿したりしてしまうのでしょうか。私は Tik Tok や Twitter など使用した経験が滅多に無いので彼らの気持ちは分からないところがあります。しかし、保健の授業で、成長とともに人に認められたいという社会的な欲求や、自分の理想を実現したいといった自己成長を求めると欲求がある、と習いました。これらの欲求は社会人、学生と誰にでもあるのは当然のことだと思えます。なので私は迷惑動画を投稿する彼らはただ炎上して注目を浴びたいという感情の裏に誰かに認められたい、度胸が

あるな、と思われたといった欲求を満たさうとしてSNSを通して行ってしまった結果が迷惑行為につながったのではないかと思えます。もちろん迷惑行為は悪いことですし、犯罪にもつながることです。しかし、私は行ってしまったことに対して、なぜそうしたのか。を第三者が考える必要があると考えています。

私はさきほど、迷惑行為は行ってしまったことを、なぜそうしたのか。を第三者が考える必要があると述べました。このように思った理由は二つあります。一つ目は誹謗中傷をする理由、二つ目は固定観念です。

一つ目の誹謗中傷をする理由については、まず正義感是人によって違うということが大事になっていきます。なぜかというとは実は誹謗中傷は人を傷つけないという目的ではなく、正しいことを指摘するためという理由で行っている人が多く、正義感から行った行動と言えます。しかし、私はSNSのような能動的な環境だからこそ、迷惑行為などに対して、

刃となる可能性がある正義を突きつけるより
逆に客観的視点で、なぜそうしたのかを考え
発信すれば社会的制裁が減らせると思い、第
三者が考える必要があると思いました。

二つ目の固定観念については、上限が設定
されてしまい、社会からそれ以上の期待がさ
れなくなる前にはたして、その上限の設定は
正しいのか、などと疑い考える必要があると
思いました。

迷惑行為ということを軸に話してきました
が、この迷惑行為という言葉は現代の様々な
問題に置き換えることができます。しかし、
置き換えるとき、客観的な視点で見ると表面
的な問題には裏には必ずれっきとした理由が
あるということや、どのような問題でも、な
ぜそのようなことになってしまったのか。な
どを考える必要があるという、共通して言え
ることが何個もあります。このように私は、
人が問題を本質的に見るには第三者が表面
のことに縛られずにみんながしっかりと考え
ることが大事だと思いました。みんなが表面

上のことに縛られずしつかりと考えた場合、
しだいに誹謗中傷や社会的制裁が減り、寛容
な心を持った社会になっていくでしょう。